

教育実習におけるリフレクションや周囲からの支援と成長感

佐藤浩一(群馬大学)

キーワード: 教育実習, リフレクション

教育実習の「リフレクション」は、事後指導を指すものとして捉えられることが多い。本研究は、実習後ではなく実習中のリフレクション、指導教員や他の実習生からの支援の実態を明らかにし、どのようなリフレクションや支援が成長に寄与するかを検討する。

方 法

対象者 小中学校で8週間の教育実習を終えた教育学部3年生を対象とした。実習はA実習(附属小中学校等, 5週間)とB実習(公立小中学校, 3週間)の二つであり、学生は一方を小学校、もう一方を中学校で経験した。

質問紙 質問紙はAB実習のそれぞれについて、以下の内容を問うものであった。(1)実習中に自分の実践を振り返り次に生かそうとしたか(内省・活用因子)、(2)実習中の成功や失敗を振り返ったか(成功失敗因子)、(3)実習録や指導案などを通じて周囲からフィードバックを受け取ったり実習録を書くことにより自分で気づいたりしたか(フィードバック因子)、(4)実践する力が伸びたか(実践力因子)、(5)自己理解が進んだか(自己因子)、(6)指導教員は指導方法を教えてくれたりフィードバックしてくれたりしたか(業務・内省支援因子)、(7)指導教員は精神的な支援をしてくれたか(精神支援因子)、(8)他の実習生は方法を教えてくれたりフィードバックしてくれたりしたか(業務・内省支援因子)、(9)他の実習生は精神的な支援をしてくれたか(精神支援因子)。評定はいずれも1~5の5段階で求めた。有効回答数は201件であった。

手続き 質問紙は実習が終了して約1ヶ月後の全体事後指導で配布した。趣旨を説明し協力の可否を回答してもらった上で、無記名で記入してもらった。さらに5名から実習録と指導案の提供を受けて内容を分析するとともに、実習に関する半構造化面接を実施した。

結 果

全体的な傾向 2回の実習のいずれにおいても、次の傾向が認められた。(1)自分の実践を振り返って次に生かそうとしている、(2)成功よりは失敗に目を向ける、(3)指導教員や実習生のコメントから学ぶことが多い、(4)実習録の整理を負担に感じている、(5)実習録を書くことで自ら気づくことは多くない、(6)指導教員からの業務・内省支援を高く評価している、(7)授業実践や児童生徒一人一人との関係作りで成長を感じている、(8)集団指導・自己理解などは成長を感じにくい。一方、2回の実習で違いが明確だったのは、他の実習生からの支援である。A実習ではB実習よりも他の実習生か

らの支援を強く感じていた。これは複数名が同じクラスに配属され、一緒に授業を作ったことによるのであろう。

成長を予測する変数 自己の成長に関わる評定の平均を目的変数、それ以外の因子の評定平均を説明変数として、重回帰分析を行った。その結果、A実習では「成功失敗」($\beta = .416, p < .01$)と「教員からの業務・内省支援」($\beta = .198, p < .05$)が成長と関連していた($R^2 = .478$)。B実習では「成功失敗」($\beta = .351, p < .01$)、「実習生からの精神支援」($\beta = .253, p < .01$)、「内省・活用」($\beta = .210, p < .05$)が成長と関連していた($R^2 = .535$)。

A実習とB実習の評定の相関 自分自身に関する評定では2回の実習の間に強い相関が認められた。例えばA実習とB実習で内省・活用因子の評定平均の間の相関は $r = .715$ であった。A実習で実践を振り返る傾向のあった人はB実習でも実践を振り返っていたのである。

実習録・指導案と面接から 実習録は毎日の活動記録と感想を書くという自由度の高いフォーマットになっていた。「～～に気づいた」「～～を考えさせられた」等と感想を書いているが、それが次の活動にどうつながったか不明な記述が多かった。一方で実習生によっては、次のような特徴的な記述も見られた。(1)児童生徒の様子を非常に具体的に記録している、(2)「感想」だけでなく「課題」や「改善策」などの項を立てて書いている、(3)「言葉かけ」「ほめ方」など同じテーマに関わる内容について複数日をまたいで記述している。面接では実践の成功や失敗を次につなげようとした様子が、どの協力者からも聞き取られた。しかし実習録や指導案ではそうした姿勢を十分に読み取ることが出来なかった。

考 察

質問紙調査の結果から、周囲からのサポート以上に、実習生が自分の成功・失敗経験を具体的に振り返ることが成長感につながる事が示された。一方、実習録ではこうした「経験学習」のサイクルが十分に表現されていなかった。実習録や指導案において、振り返る一次にどう生かすか考える—それを試みる—その結果を振り返る、という経験学習のサイクルに即したフォームを工夫することが、実習生の成長につながるのではないかと推測される。

付 記

本研究はJSPS科研費17K04342の助成を受けた。